
いろんなカタチ

千悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いろいろなカタチ

【Nコード】

N2441S

【作者名】

千悠

【あらすじ】

いろいろなカタチについて語る、とある男女の放課後風景

「丸って、良いわよね」

「まる？」

それは唐突な一言だった。放課後の教室に居残り、委員会の作業をやっていた時のことである。向かい合わせにくっつけた机。僕の向かい側に座った彼女が唐突に言った。

「まる、ね。確かに、悪くは無いな」

「そうよ、丸、良いじゃない。私、丸が好きなのよ」

「何故？」

「なんというか、完璧な感じがするのよね」

「ふうん」

「よく、曲線美って言葉を聞くじゃない。丸って、その究極系だと思うのよ」

「なるほど、たしかにな」

でも、と僕は言う。

「丸って、なんか簡単過ぎないか？」

「そうかしら？」

「そう。なんていうか、コロッとし過ぎてるんだよ」

「丸だからね」

「丸だけど」

そうだけど。

「もうすこし、カドがあっても良い気がしてさ。例えば、三角とかみたく」

「いやよ、三角なんて。考えてもみなさい。テストで、三角より丸の方が嬉しいでしょう？」

「でも、バツより三角の方が良いじゃん？」

「丸の方が更に良いわ」

「まあ、そうだけどさ。でも、三角って複数を繋げると四角になる

だろ？」

「なるわね」

「硬化と紙幣、どっちが嬉しいよ」

「それ、三角じゃなくて四角だわ」

「四角だね」

仰る通り。

「そうか、じゃあ、丸が最強かな」

「そりゃそうよ。私が言ってるんだから、最強だわ」

「そうかなあ」

いや、でも待てよ。

「でも、テスト用紙って四角だな」

「そうね」

「そのテスト用紙が無ければ丸もバツも無いんだから、実は四角が最強なのかもしれない」

「馬鹿ね。そこまで話を飛躍させるんだったら、こちらにも言い分があるわ」

「どうぞ」

「地球って、丸いじゃない」

「たしかに、丸いね」

「だから、丸が最強よ」

「そうかなあ」

「なんなの？ さっきから」

なんだろう。

「いやね、宇宙規模で言うんだったら、宇宙ってどんな形なのかなあって、思ったんだよ」

「丸いんじゃない？ 最強なもの」

「丸いのかな」

「丸いわよ」

宇宙の謎が一つ解けた。

「でも、考えてみてよ」

「何を」

「四角や三角。それに対して丸。どちらの図形の方が、より沢山の図を生み出せる？」

「それは少しずるいわ。そっちは四角と三角じゃない。二対一なんて、丸が不利よ」

「なんで？ 最強なんでしょう？」

「数値的に考えたら、十が二つと百、どっちが強いと思う？」

「百」

「掛け算しても？」

「それ、おあいこになってるね」

「あら、私とした事が」

「で？ 数値的に？」

「そう。じゃあ、例えば三角や四角がマイナスの数値だとしたら？」

「マイナスとマイナスを掛けたら大きなプラスになる、って、結構聞くセリフだね。あれ、カッコいいと思う」

「馬鹿ね。いくらマイナスとマイナスでプラスになっても、マイナスとマイナス二だったらしょうもないわよ」

「夢が無いね」

ドリームズカムトゥルー。

「夢なんていらないわ。今が充実してるもの」

「リア充ってやつ？」

「なにも、リアルが充実してるとは言っていないわ」

「してないの？」

「さて、どうでしょう？」

「クイズになったね」

「なったわね」

「じゃあ、クイズです」

「はいどうぞ」

「クイズってそもそも何ですか？」

「難しいクイズね」

「クイズと質問の違いって何？」

「私的に言えば、出題者が答えを用意していればクイズ。していなければ質問、ってところかしら」

「じゃあ、試験はクイズで実験は質問？」

「さあ？ どうでしょうね」

「なら、期末試験も期末クイズにすれば良いと思うんだ」

「何故？」

「漢字とカタカナでは、やっぱり受け取り方が違うし、クイズって言われた方が、ウキウキすると思うんだけど」

「馬鹿ね。試験は試験だから試験なんじゃない」

「試験の三乗だね」

「期末試験を期末クイズなんて言い方したら、試験の重みがなくなるわ」

「あ、無視された」

「傷ついた？」

「別に」

「ああそう」

「うん」

「……………」

「……………」

沈黙。

「何の話だったかしら？」

「試験の話？」

「そうね。まあつまり、クイズより試験の方が良いのよ」

「そうかなー。試験って言葉の響きが、カドだらけで嫌なんだよなー」

「何よ。カドがあった方が良いじゃない」

「うーん」

「うーん」

「真似？」

「真似」

「でもさ」

「何かしら？」

「そうすると結局、カドだらけの四角が最強じゃない？」

「そうすると結局、カドの無い丸の方が良いって事になるわよ？」

「あれ」

「参ったわね」

「円満にいかないね」

「そもそも私たちがトゲトゲしてるものね」
仕事に戻るか。

(後書き)

と言う事で、作者初の短篇でした。
まあ、書いてる人間が人間なので、非常にアレな内容だったと思います。

結局、どんなカタチが最強なんでしょうね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2441s/>

いろんなカタチ

2011年11月13日14時06分発行